

久留米教区 宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌

親鸞聖人入門講座

テキスト

— 出家 —

私たちの宗旨は浄土真宗です

- 【本尊】 …阿弥陀如来
- 【正依の経典】 …仏説無量寿経（大経）
※三部経 仏説観無量寿経（観経）
仏説阿弥陀経（小経）
- 【宗祖】 …親鸞聖人
- 【宗祖の主著】 …顕浄土真実教行証文類（教行信証）
- 【宗派名】 …真宗大谷派
- 【本山】 …真宗本廟（東本願寺）

※親鸞聖人の伝記には、不明確な部分が多く、ことからによっては諸説あるものもあります。本テキストでは、『浄土の真宗』、『親鸞 生涯と教え』、『親鸞聖人伝絵 —御伝鈔に学ぶ—』（以上、東本願寺出版部）、『まんが宗祖親鸞聖人』（難波別院）、『親鸞聖人 御絵伝を読み解く』（法蔵館）を参考にしました。

出家



ようわ
養和元年（1181）の春、①_____歳になった親鸞聖人は、
伯父の^{ひのりつな}日野範綱につれられて、②_____の
※^{じちんかしょう}1 慈鎮和尚（^{じえん}慈円）のもとで、③_____されま
した。

出家とは、世間的な生活を離れて仏弟子となり、人間としてほんとうの安らぎと満足を求める道に立つことです。

聖人の出家の動機を、『^{ほんがんじしょうにんでんね}本願寺聖人伝絵』（^{ごでんしょう}御伝鈔）には、
「^{こうぼう}興法の^{いん}因うちに^{きざ}萌し、^{りしょう}利生の^{えん}縁ほかに^{もよお}催いしによりて」と記されています。つまり、苦しみ悩む多くの人々を目にして、人間としてほんとうに生きるということを問いたずねる思いが起こり（因）、また世間では仏法による救いが

求められていたという（縁）、そのような内外の因縁によって出家を決意したということです。このほかにも、当時の時代状況や慣習にしたがったという説などもあります。

また聖人の出家については、一つの伝承が残されています。出家を許可されたのが日暮れでしたので、慈鎮和尚は「明日あらためて」と告げられました。そこで聖人は、次のような歌を詠まれました。

※² 「明日ありと 思う心のあだ桜

よわ
夜半に嵐の 吹かぬものかは

この思いに心を動かされた慈鎮和尚は、その日のうちに出家をするための儀式を行いました。これを得度式といい、親鸞聖人はそのときに、④..... という名前を与えられたと伝えられています。

◇補 注

※¹ くじょうかねざね 摂政九条兼実の実弟で、天台座主ざすと呼ばれる延暦寺住職を4度歴任した。

※² （現代語訳）「明日もまだ桜は咲いていると思っているが、夜中に嵐がきて桜の花を散らすことがないといえるだろうか」

出家と得度

親鸞聖人は9歳の春、天台宗の青蓮院で出家をされました。聖人の出家の動機については、一家に不幸な事情があったとも、貴族の子弟の多くが出家させられた当時の風習によるという説もあります。聖人の4人の弟も比叡山や三井寺で出家されたといわれています。

いずれにしても聖人自身の選びに先立って、内外に聖人をうながす事情があったことがうかがわれます。

出家とは、俗世間を離れ修行によって煩惱を断じていく仏道です。のちに聖人は煩惱の身のままで歩める仏道に出会われていくことになります。

なお、真宗大谷派では聖人の出家の事跡にならい、9歳から得度式を受けることができます。

親鸞聖人の名前

聖人は出家をされて、僧名を「範宴」と名のられました。解釈と経緯については諸説ありますが、出家以降も聖人は求道の歩みのなかで「綽空」、「善信」、「親鸞」と名のりを変えておられます。

帰敬式

真宗大谷派において「帰敬式」とは、仏弟子の歩みのはじまりに立つために受ける儀式です。三宝に帰依し、仏弟子（お釈迦様の弟子）となり、法名（釋〇〇・釋尼〇〇）をいただきます。

※三宝とは？

- ・ 仏…ブツダ、目覚めた人。
- ・ 法…ダルマ、真実の教え。
- ・ 僧…サンガ（僧伽）、教えによって結ばれた集い。

☆話し合いのポイント例

- 俗名と法名と戒名
- 仏弟子とは何か
- 今を生きる ー後生の一大事
- 人生の契機（結婚、養子、就職、受験など）
- 願うこと（もの）、願われること（もの）
- 人間として本当に生きるとは

メモ

『御絵伝』について

初幅(二段)



第三図 青蓮院客殿

第四図 得度剃髪

左図の緋色の衣は慈鎮和尚、黒服は伯父の日野範綱、白服は9歳の親鸞聖人です。聖人と範綱が、慈鎮和尚に出家得度をお願いしている場面です。

下の方には桜が満開になっており、これは一段(誕生)から続いている絵です。このことは、聖人9歳の春の出来事であったということを伝えています。また、和歌にもあるように世の無常も表現しています。

右図は、夜の暗い時間に得度式が行われたため、蠟燭に灯りがともされています。このことから現在の得度式は、夜の時間、もしくは雨戸を閉め切るといったような暗いところで行うことが習わしとなっています。

親鸞聖人ゆかりの地紹介

◇青蓮院

青蓮院は比叡山延暦寺に所属し、妙法院（三十三間堂）、大原の三千院とともに天台宗の三門跡の一つとされています。起源は、最澄が比叡山延暦寺を開くにあたって作った住房の一つ青蓮坊であり、本院の開基は天養元年（1144）です。

親鸞聖人が実際に出家得度をされたのは、のちに青蓮院の本坊の一部となった白川房（慈円の住房）であったと考えられています。



青蓮院御門



御得度の間

境内には聖人が得度された「御得度の間」や、得度の時に剃り落とされた髪の毛を植えたという像が安置されている「植髪堂」、また像に使われた残りの髪を納めたという遺髪塔などがあります。

また、青蓮院は東海道の入口、粟田口にあること、二世門主を鳥羽天皇の第七王子が務めたことから「粟田御所」とも呼ばれています。

所在地／京都市東山区粟田口三条坊町

交通案内／市バス「神宮道」下車、徒歩5分／地下鉄東西線「東山駅」下車、徒歩5分

